

眼で見る世界の森林 (1)



巨木の谷 (Valley of the giants)

西オーストラリア州南端にある Albany の町から約 100km 離れた Walpole-Nornalup 国立公園内に「巨木の谷」と呼ばれる原生林がある（星印）。樹齢 400 年前後と推定されている red tingle (*Eucalyptus jacksonii*) の森林で、樹高は約 70m、周囲長は 20m に達する（写真）。

Red tingle 林は南氷洋に面した低い丘陵地の内陸側に位置し、年降水量は 1,200mm で、年変化が少なく、水はけのよい肥沃な谷に形成された森林である。ユーカリ属では最大の板根を持ち、この地域にのみ生育している red tingle を主に yellow tingle (*E. guifoylei*), karri (*E. diversicolor*) および marri (*Corymbia calophylla*) が林冠層を形成している。Marri はもともとユーカリ属に入っていたが、その後現在の属に組み替えられた樹種でユーカリ属にきわめて近縁な種である。垂高木層は 20~30m の高さをもつが、ほぼ karri sheoak (*Allocasuarina decusta*) の



みで構成されている。その下にはアカシア属の低木層がある。林床は主にイネ科、カヤツリグサ科の多年草が繁茂している。

オーストラリアの森林は基本的に最上層をユーカリ属が、垂高木層をモクマオウ属が、そして低木層をアカシア属が優占している。場所によってそれぞれ種は異なるが、発達した森林はこれら 3 属の樹種がそれぞれの階層を構成している。

Red tingle の森林は 6,000 ha に広がっているとのことだが、アプローチがしやすいのは“valley of giants”であろう。地表と林冠 (tree top walk: 高さ 40m) に遊歩道が整備され、いろい

ろな高さで森林を観察できる。Albany からパースへ戻る途中で立ち寄ったため、長くは滞在できなかったが、あらためて訪問したい森林の一つである。解説には主に CALM 発行の“Saving the giants” (2004, 7pp.) を参考にした。

(森林総合研究所 齊藤昌宏)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は 29 頁を参照ください。